

ザ・ミステリー・エグザミナー特別号

1924年8月25日号

読者の皆様へ一々お詫びせ 読んでいたる

THE MISTERY EXAMINER TEA & CO., LTD. LONDON

此の紙が送られたてはイーライ・エラムの本業は脱帽や脱小帽用、カット用の帽子を販売する「エラム」の
名前を冠するところを脱帽のことを脱小帽の意で、本紙の名前を「エラム」の意である。本
紙は大手出版社の「エラム」の脱帽用、カット用の帽子を販売する「エラム」の意である。
エラム、エラムの脱帽の意で、本紙の名前を「エラム」の意である。本紙の名前を「エラム」の意である。
エラム、エラムの脱帽の意で、本紙の名前を「エラム」の意である。本紙の名前を「エラム」の意である。
エラム、エラムの脱帽の意で、本紙の名前を「エラム」の意である。本紙の名前を「エラム」の意である。
エラム、エラムの脱帽の意で、本紙の名前を「エラム」の意である。本紙の名前を「エラム」の意である。
エラム、エラムの脱帽の意で、本紙の名前を「エラム」の意である。本紙の名前を「エラム」の意である。

ルイジアナの悲劇

TRAGEDY IN LOUISIANA

ルイジアナ警察は自殺と断定

悲劇の訪れ

ウィリアム・J・ハーバートーー＜ミステリー・エグザミナー編集長＞

遺憾ながら、ここに、ジェレミー・ハートウッド氏の死をお伝えしなければならない。読者諸兄は、本紙のコラムにおいて初めて披露された氏の素晴らしい才能について、鮮明にご記憶であろう。

尊敬を集めるアーカム一族の一員であるジェレミーの、絵画芸術に対する興味は、数多くの優れた教師を得て磨かれてきた。氏自身がしばしば語っていたところでは、ジェレミーに絵画の素晴らしさを教えてくれたのはピックマン氏だったそうだ。ハートウッド氏が本紙によせた最初のスケッチは、いまでも有名である。

イスマス事件に関する当社の追跡調査の過程で、わが社の最も若いスタッフであった彼の想像力が開花したと言つていいだろう……彼の大胆なデッサン力と、妥協を許さない色彩感覚とが結実して、ニューアイングランドの不幸な町に降りかかったいまわしい悲劇の事件に冷徹な光を当てることに成功したのだ。

彼の才能が開花して以来、ジェレミーは当社と袂（たもと）を分かつこととなった。しかし、ルイジアナのさわやかなそよ風に誘われて故郷に戻ってきた時には、ジェレミー・ハートウッド氏は、いみじくも言ったように「校了紙の匂いが懐かしくて」当社に立ち寄るのが常だった。いつでも温かく、心から歓迎してもらえることが、彼には分かっていたのだ。

われわれはジェレミー・ハートウッド氏のことを忘れはしない。氏はわれわれの心を驚きで満たしてくれた。あのような人物と友誼を結べたことは、われわれの誇りである。氏の思い出は永遠に私の心に刻まれるであろう。

孤独の辛さ

THE PAIN OF SOLITUDE

ハロルド・マグルーダ 小紙特派員

夜明けの青白い光に照らされ、ロープの影が板張りの床に不気味に伸びていた。

死の陰鬱な翼が大がらすのようにはばたく、このひと氣のない屋根裏で、ひとりの男が混乱した人生に終止符を打った。ジェレミー・ハートウッドはもうこの世の人ではない。

ひっくり返ったスツール、まにあわせの結び目……現地警察のドレイク署長にいわせれば、明らかに自殺である。「なにもかもが自殺を指し示している。争った跡もない。一目瞭然のケースだな」しかししながら、素人探偵（われらが敬愛する読者諸氏が知らぬはずもない人種である）にしてみれば、まだ答えが出ていない疑問もいくつかあるし、犯罪である可能性も残されているのだ。それらの疑問の影に光を当ててみるとことにしてしよう。

ハートウッド氏は遺書を残していないようだが（一般に考えられているのとは反対に、自殺の場合には珍しくないことだ）、故人にごく親しかった人々は氏を評して、人生に病み、意味のないものに脅えていたと語る。氏の忠実な執事はいう、「かわいそうなお父上を亡くしてからは廃人のようになられました。学間に没頭することで悲しみをまぎらわそうとなっていましたが、恐怖の幻想にとりつかれていらっしゃいました」読者諸兄には、これらの幻想にまつわるフランク・ソーンダイクの興味深い記事をお読みいただきたい。

デルセトという大きな屋敷の隠遁した空間のなかだけで生活するうち、ジェレミー・ハートウッド氏の生活は徐々に悪夢と化していく。私自身デルセトの薄暗い廊下で迷ってしまい、何分かのあいだ恐怖を感じたことがある……ハートウッド氏が毎日毎日共に暮らしていた恐怖を……。

すでに厳しい環境の中で神経を鍛えられ、そんなにも重苦しい雰囲気のなかで暮らしてきた人物が、耐えがたい生活から抜け出す唯一の方策に逃避せざるをえなかったとは、まったくもって奇妙な話ではないか？

ラックス・ワンダーランプ 広告

そして光ありき

ラックス・オイル・ランプは、まさに驚異のランプです。完全対衝撃構造はもちろん、見栄えのする銅製オイル・タンクのおかげで、さっとひとふきすればあっという間にきれいになります。特別に長い灯心と硬質ガラスを使っていますので、いつまでも壊れることなく明かりを灯していただけます。

どうぞお部屋に飾って見せびらかしてください。まったく臭いもしませんし、一生使っても壊れません。あなたのお孫さんの代になっても、ラックス・ワンダーランプはまだ使われているでしょう！

下記の要領でいますぐご注文を。そしてラックス・ワンダーランプの素晴らしさをお友達にも知させてください！

激安価格の4ドル25セントで、ラックス・ワンダーランプを購入希望。何時間も快い明かりを提供してくれる無臭オイル・ランプ（1ドル25セント相当）も無料で添付すること。カタログも希望。不満の場合は返品。

絵画とキャンバス PAINT AND CANVAS

K・W・ライムリックのクロニクル

どうしてもいっておきたいことなのだが、ジェレミー・ハートウッドの才能を最初に見出だし、それをはぐくんだのは、シェリーが言うところの「貴族的嗜好」を持った人々だった。だが彼の作品の迫力と、他人に真似のできないテクニックゆえに、芸術の殿堂に入るどころか、これから何年かのあいだ、控えの間で待つことを運命づけられたこととなった。

ごく初期の作品にさえ見られる彼独特の技巧をもってしても、彼が選んだ（ハートウッドの全作品に流れる、明らかに何かにとりつかれたような雰囲気を知る読者は、「選んだ」ではなく「間違って選んだ」と主張するかもしれない）興味の対象が潜在的にかかる悪条件を、残念ながら克服することはできなかつた。

ハートウッドが超自然の領域に惹かれたために、彼の作品は、先例にもれず、たいていの人の口にあわないものとなつた。死を題材とする不気味な嗜好ゆえに、彼の作品を観賞するには最も強力な胃が必要となる。昨秋ボストンのラッセル・ホールで行なわれた彼の展覧会は、最も熱心な支持者たちにさえ、はつきりした不満の声を上げさせるものだつた。

展示された作品の題名をいくつか挙げさせてもらいたい。「月に吠える」「最後の安息日」「口にできぬものが潜む深淵」

ハートウッドと交わした会話に、この芸術家の考え方の一端を見ることができる。

「あまたの忘れ去られた宗教の本質を学ぼうとするとき、人間の精神は狂氣のうちに逃げ場を見出すのだよ。われわれが知つてはならないことが、数多くあるんだ！」

どうすれば、「不安」を感じることなく、彼の作品を観賞できるだろう？

この居心地の悪さは、ハートウッドの次の言葉でいっそう明白になる。「私の主題は夢からとっている。ただし、このような生き物はこれまで存在してきたし、これからも永久に存在すると、私は確信しているのだ！」

あの展示会が、当初3週間の予定であったのに、たったの48時間で終了してしまつたことは記憶に新しい。筆者が尊敬する同僚マクグルーダーによると、ハートウッドの住むデルセト館には、もっともと不穏な絵さえ存在するのだという。

ハワード・フィリップス・ラヴクラフト 幻想文学の大家の経歴

A BIOGRAPHY OF A MASTER OF FANTASY LITERATURE

1889年6月12日【自伝では1890年8月20日となっており、各種資料を調べても、そのほうが正しいようです：訳者注釈】ロードアイランド州プロヴィデンスで生をうけたハワード・フィリップス・ラヴクラフトは、才能に満ちた創造性のある少年だった。神秘的な夜空や『アラビアン・ナイト』のような物語に魅せられた少年は、六歳の時に初めて『ガラスの小瓶』という物語を書いた。父親が死んで四年目のことだった【これもまちがい、精神に異常をきたした父親は、H.P.L.が8歳のときに死んでいます：訳者注釈】。

ラヴクラフトは、病気がちだったため、学校には行ったり行かなかったりだったが、特に興味を持つた化学と天文学では熱心な生徒ぶりを見せた。

やがて詩作と科学雑誌の発行を始めたラヴクラフトだったが、父方の祖父が亡くなった【これは母方の祖父＝実業家ではぶりがよかつた=のまちがいでしよう：訳者注釈】ため、そのち生涯悩まされることになった貧困状態に、家族とともに投げ込まれることとなつた。

隠遁状態に近い生活を送つてゐた1909年から1913年のあいだに、彼はさまざまな小部数の雑誌に詩や記事や短編小説を書いた。

その間も、彼は飽くことを知らず読書にふけつた。

彼の最もよく知られた作品のなかのひとつである「眠りの壁の彼方」を書いたのが、1919年。この作品こそ、彼の作家としての成長の里程となり、幻想文学の世界に新しい地平を開くものだつた。

それからというもの、ラヴクラフトは詩やエッセイや小説を生み出し続けるとともに、大勢の作家仲間や友人たちと書簡を交わし続けた。

ラヴクラフトが生きているうちは、崇拜者たちの限られた集団を越えて、アメリカ中で評判になることはなかつた。作品集が刊行されることもなかつた。

成功を得ることはできなかつたが、それで仕事をやめてしまうこともなかつた。彼は伝説としてのアメリカを求めて、あまたの州を旅した。

1924年、ソニア・グリーンと結婚、ニューヨークに住んだラヴクラフトは、数多くの失望に悩まされた。貧困、定職を持たないこと、そしてニューヨークでの胸糞悪い暮らし。ここにおいてラヴクラフトは、結婚が大失敗だったことに気づいた。〈プロヴィデンス出身の紳士〉は、不幸きわまりない男だつたのである。

軽蔑する世紀のなかで喪失感を味わつたラヴクラフトは、プロヴィデンスにおける読書と文通と愛する猫たちに囲まれる生活に戻つた。

彼を崇拜する人たちの集団はどんどん大きくなつてゐる。そのなかには、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、J・ベルジエ、スティーヴン・キングといった大物も含まれてゐる。

彼の全作品は、友人であるオーガスト・ダーレスの努力のおかげで、常に版を重ねるようになった。

『死体蘇生者ハーバート・ウェスト』『ダンウィッチの怪』といった彼の作品に触発されて、映画もたくさん製作された。

幻想文学はラヴクラフトのヴィジョンに大きな影響を受けてきた。まだ見ぬ世界を切り拓き、新しいスタイルを構築した先駆者として、ポオとならんで彼が引用されることも多いのである。

ラヴクラフトの長短編選書

A SELECTION OF LOVECRAFT'S NOVELS AND SHORT STORIES

THE CASE OF CHARLES DEXTER WARD

チャールズ・ウォードの奇怪な事件

BEYOND THE WALL OF SLEEP

眠りの壁の彼方

IN THE VAULT

死体安置所にて

HERBERT WEST-REANIMATOR

死体蘇生者ハーバート・ウェスト

THE RATS IN THE WALLS

壁のなかの鼠

THE HAUNTER OF THE DARK

闇をさまようもの

THE SHADOW OVER INNSMOUTH

インスマウスの影

THE OUTSIDER

アウトサイダー

THE NAMELESS CITY

無名都市

THE COLOUR OUT OF SPACE

宇宙からの色

COOL AIR (COLD AIR)

冷気

THE CALL OF CTHULHU

クトゥルーの呼び声

THE DUNWICH HORROR

ダニッチの怪

THE WHISPERER IN DARKNESS

闇に囁くもの

AT THE MOUNTAINS OF MADNESS

狂気の山脈にて

PICKMAN'S MODEL

ピックマンのモデル

THE DREAM-QUEST OF UNKNOWN KADATH

未知なるカダスを夢に求めて

【邦題は、東京創元社のラブクラフト全集を参考にさせていただきました。】

精神の不調

小紙科学担当編集者 フランク・ソーンダイク

シェレミー・ハートウッドの悲劇的なケース

精神分析の分野は日新月歩である。精神の神秘は、進歩という名の、目をくらませるほどの光明によって、すぐに解き明かされてしまうことだろう。本誌の科学担当者としての立場から、小生はボストンのフロビッシャー精神病院の神経科主任であるツエンプ教授に、シェレミー・ハートウッドの悲劇的なケースについて、学問的側面からいくつかの考察をめぐらしていただくべきだと考えた。

ツエンプ教授からは以下のよう回答をいただいた。

「人が自分の人生を終わらせるということが、たいていの場合家族や友人たちの嘆きのもとなるのは明らかだ。ただし彼らがそのことを他人にどう語るかは別で、そのような方法で生命を断った当人が、それまでにも思いもよらない狂気を現わしていたかのように語られることもある。とはいってこの現象はそうしばしばあるものではなく、その個人が明らかに狂気を宿していると告げられた場合に限定されるのはいうまでもない。自殺は、生気に満ちた人生に対する打ち克ち難い障壁と認められるものに（問題のケースでは父の死）よって合成された、人を苦しめる要素の頂点をなすものではない場合が多い。バランスのとれた人物がそのような誘惑に負けることはまずない。そのためには、それなりの状況がずっと続く必要があるのだ。

近親者や友人たちは往々にして患者のなかで大きくなっていく絶望、科学の世界の言葉でいえば強迫観念、に気づいていないものだ。ハートウッドのケースも驚くべきものではない。神経を張り詰めた芸術家がヒステリーに陥り、病的な傾向をみずからつのらせたというわけだ。何らかの特殊な環境が、ハートウッド氏に究極の運命的な一步を踏み出させたのだろうが、その答えは誰にもわかるまい」

右舷のフリゲイト艦 ヴァルチャ一号最後の航海

FRIGATE TO STARBOARD THE LAST VOYAGE OF THE VULTURE

第一話

ハートウッド家に対する弔意を表すため、冒險小説の愛好家にはキャブテン・トレヴィスの名で知られる、シェレミー・ハートウッドの父上ハワード氏の小説をここに連載することにしました。

香りたつ島風が「フェゴ」と呼ばれる南風に道を譲り、それを帆いっぱいに受けた船が泡立つ大波の上を飛ぶように走る季節のことだった。情け知らずのく切り傷ジョーダン船長の指揮のもと、ヴァルチャ一号は風上に詰め開きで走っていた。

「右舷にフリゲイト艦発見！」マストの見張り台から、「首刈り」クイックが叫ぶ。

「こいつはいただきぜ」ジョーダンがクスクス笑った。

節くれだった手をこすりながら、はやはやと稼ぎを数え上げ、すぐに飲めるはずのラム酒のことを思った。それからジョーダンは、望遠鏡を獲物のほうに向かえた。

ジョーダンのもの欲しげな笑みが凍りつき、みるみる恐怖の表情に変わっていた。

「ああ、神様っ！」彼はえいだ。「こいつはおれたちのほうが、やつの餌食だぜ……野郎ども！ とにかくいっぱいに帆を張れっ！ 向こうに見えるのはブレグスト号だ。空気に死の臭いがしやがる！ もし追い付かれたら、おれたちはサメの餌だ。なにしろ悪魔と戦えるやつなんていないからな！」

最初の砲弾はヴァルチャ一号の舷側に命中した。

つづく……

ブルガン・スペシャル 広告

泥棒をシャットアウト！

そうです、泥棒は阻止しなくては！

そのために、あなたは何かできるはず！

ビギロン・スタイル社のブルガン・スペシャルは15日間の無料試用期間付きです。

最新モデルは、すでにたくさんの金賞を受賞しています（1919年度ミラノ・コンヴェンション、ボルチモア弾道学会）。ブルガン・スペシャルはダブル・ローディング（薬量2倍）38マグナムで、10歩離れた場所から7枚のレンガを撃ち抜ける唯一の拳銃です。

この銃にご満足いただいた数多くのお客様から、喜びのお便りをいただいております。オハイオ州のM氏のお便りにはこう書かれています。「ブルガンがなかったら、今日死んでいたところだ」

ビギロン・スタイル社のスローガンはこうです。

犯罪に立ち向かえ！

ブルガン・スペシャル（9ドル95セント）をお買い上げいただいた方には、もれなく無料の分厚い色刷りカタログを進呈いたします。いますぐご注文ください。見栄えのする子牛革のホルスター（1ドル35セント）や便利なクリーニング・キット（1ドル35セント）、それに弾丸（25発入ってひと箱1ドル35セント）もお忘れなく。

品物にご満足いただけた場合は、15日以内に代金をお支払いください。

ブルガンを見たら、悪党だってすたこら逃げ出す！

ご注文先：ピッツバーグ市リバブリック通り455番地 ビギロン・スタイル社

スマートキッズ

SAFETY GUN TRAINING

安全な射撃をサポートする